

科目名	演奏特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 ウィーン古典派の協奏曲から 1～2 曲、ロマン派以降の協奏曲から 1～2 曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。					
授業概要					
対面授業にて実施する。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方をピアノ 2 台形式で学ぶ。					
受講上の注意					
各々が研究する楽曲の分析、練習。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			60		
テスト			40		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2 台ピアノ譜				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上に達しない場合は単位を付与しない。			
教員実務経験			
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。		
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。		
3	各々が選曲した楽曲の 1 楽章		
4	1 楽章の続き		
5	1 楽章 カデンツを加えて		
6	1 楽章の仕上げ		
7	2 楽章		
8	2 楽章 仕上げ		
9	終楽章		
10	終楽章の続き		

11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲の CD 及び DVD 鑑賞
13	指揮者の視点から協奏曲を考察し、オーケストラパートをピアノで演奏する
14	全楽章の復習、仕上げ
15	全楽章の仕上げとテスト
16	ロマン派以降の協奏曲について 後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
17	各々が選曲した楽曲の 1 楽章
18	1 楽章の続き
19	1 楽章 カデンツを加えて
20	1 楽章の仕上げ
21	2 楽章
22	2 楽章の続き
23	2 楽章の仕上げ
24	終楽章
25	終楽章の続き
26	終楽章の仕上げ
27	選曲した楽曲の CD 及び DVD 鑑賞
28	指揮者の視点から協奏曲を考察し、オーケストラパートをピアノで演奏する
29	全楽章の復習、仕上げ
30	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 ウィーン古典派の協奏曲から 1～2 曲、ロマン派以降の協奏曲から 1～2 曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。					
授業概要					
対面授業にて実施する。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方をピアノ 2 台形式で学ぶ。					
受講上の注意					
各々が研究する楽曲の分析、練習。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			60		
テスト			40		
教科書情報					
教科書 1					
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2 台ピアノ譜				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上に達しない場合は単位を付与しない。			
教員実務経験			
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。		
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。		
3	各々が選曲した楽曲の 1 楽章		
4	1 楽章の続き		
5	1 楽章 カデンツを加えて		
6	1 楽章の仕上げ		
7	2 楽章		
8	2 楽章 仕上げ		
9	終楽章		
10	終楽章の続き		

11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲の CD 及び DVD 鑑賞
13	指揮者の視点から考察し、オーケストラパートを演奏する
14	全楽章の復習、仕上げ
15	全楽章の仕上げとテスト
16	ロマン派以降の協奏曲について 後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
17	各々が選曲した楽曲の 1 楽章
18	1 楽章の続き
19	1 楽章 カデンツを加えて
20	1 楽章の仕上げ
21	2 楽章
22	2 楽章の続き
23	2 楽章の仕上げ
24	終楽章
25	終楽章の続き
26	終楽章の仕上げ
27	選曲した楽曲の CD 及び DVD 鑑賞
28	指揮者の視点から考察し、オーケストラパートを演奏する
29	全楽章の復習、仕上げ
30	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	伊勢 敏之、本田 耕一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
取り上げた楽曲の詳細な分析、作曲家の時代背景、作曲の経緯などや、それに伴った演奏スタイルを研究し、より深く掘り下げ徹底した研究をすることを通じて、演奏家として必要である豊富な知識を身に着け、実際の演奏に役立てるようになることを目的とする。					
授業概要					
対面授業 ・取り上げる楽曲を決め、楽曲や作曲家について研究してきたことをプレゼンテーションする。 ・楽曲分析をする。また分析のノウハウなどを学ぶ。 ・研究した成果を通じて、実際の演奏へと反映し、以前の演奏とどう変わったかを確認する。 ・CD、DVD等の鑑賞を通じた秀逸な演奏の研究。 ・録音をし、自らの演奏を客観的にチェック。					
受講上の注意					
研究したい楽曲を決定し、教員や伴奏者の分など、必要に応じた楽譜を準備する。 次回までのやるべき課題を課すので、必ずやり遂げる。 ※受講者数、研究や練習状況の進捗、取り組み曲の規模などによっては 研究で取り上げる曲を減らすことがある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(受講姿勢、課題の達成状況など)			50		
研究レポート・プレゼンテーションの内容			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ● 第1回 ガイダンス(方針説明、成績評価方法の説明等) 取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)] ● 第2回 作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第3回 取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ		

科目名	演奏特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	伊勢 敏之、本田 耕一				
クラス名					

授業目的と到達目標

取り上げた楽曲の詳細な分析、作曲家の時代背景、作曲の経緯などや、それに伴った演奏スタイルを研究し、より深く掘り下げ徹底した研究をすることを通じて、演奏家として必要である豊富な知識を身に着け、実際の演奏に役立てるようになることを目的とする。||||

授業概要

対面授業|・取り上げる楽曲を決め、楽曲や作曲家について研究してきたことをプレゼンテーションする。|・楽曲分析をする。また分析のノウハウなどを学ぶ。|・研究した成果を通じて、実際の演奏へと反映し、以前の演奏とどう変わったかを確認する。|・CD、DVD等の鑑賞を通じた秀逸な演奏の研究。|・録音をし、自らの演奏を客観的にチェック。

受講上の注意

研究したい楽曲を決定し、教員や伴奏者の分など、必要に応じた楽譜を準備する。|次回までのやるべき課題を課すので、必ずやり遂げる。||※受講者数、研究や練習状況の進捗、取り組み曲の規模などによっては| 研究で取り上げる曲を減らすことがある。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点(受講姿勢、課題の達成状況など)	50
研究レポート・プレゼンテーションの内容	50

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ● 第1回 ガイダンス(方針説明、成績評価方法の説明等) 取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートや Power P oint などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)] ● 第2回 作者・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第3回 取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ		

科目名	演奏特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	阪本 朋子				
クラス名	パフォーマンス課題⑤の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題⑥提示				

授業目的と到達目標

①想起した音(音の表情)をただちに声や楽器で実践できる能力を身につける|②自らの演奏(作品)の魅力を確認し、自己実現に至るプロセス(練習を含む)を構築する能力を身につける|③演奏する現場において、音楽は絶えず流動的である。臨機応変な対応力を身につける|④専攻がピアノの受講生には、即興演奏・アレンジメント奏法・コードネーム奏法の習得も目標とする|

授業概要

・受講生全員参加型対面授業の予定(絶えずディスカッションできる環境を提唱します)|・常に即実践の姿勢で自らのパフォーマンスを磨く場と考えてください。毎回「パフォーマンス課題」を提示します|・作品への共感をいかに伝えるか、自己表現の挑戦と工夫を絶えず繰り返す場とします|

受講上の注意

・毎回提示する「パフォーマンス課題」を予習、復習において徹底研究してください。|・受講に際しては、自らが研究したい楽曲の楽譜は必要部数を準備して授業に臨んでください。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
成果発表パフォーマンス 100%	

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
動きやすい服装での参加を提示することがあります。			
教員実務経験			
ピアニスト			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション パフォーマンス課題①「鳩ぽっぽ」の実践 パフォーマンス課題②(宿題)「かえるのうた」か「ハッピーパースディ」		
2	パフォーマンス課題②の実践 各人の課題提出 パフォーマンス課題③の提示 パフォーマンス課題は、受講生の力量に応じて提示します。		
3	パフォーマンス課題③の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題④提示		
4	パフォーマンス課題④の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題⑤提示		
5	パフォーマンス課題⑤の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題⑥提示		
6	パフォーマンス課題⑥の実践 表現したい音の表情について、その習得法を記述する。 以降の授業のキーワードは「手塚治虫」「駅ピアノ」		

7	自ら課した練習プロセスの確認①
8	自ら課した練習プロセスの確認②
9	自ら課した練習プロセスの確認③
10	自ら課した練習プロセスの確認④
11	自ら課した練習プロセスの確認⑤
12	キーワードの再確認
13	前期成果発表に向けての準備①
14	前期成果発表に向けての準備②
15	前期の成果発表

科目名	演奏特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	阪本 朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
前期の目的と目標に加えて、基礎教養としての音楽、実社会へいかにつなげて行くかを探ります。 「知識」から「知識を動かす力」を身につけます。					
授業概要					
前期と概要はほぼ同じ 加えて、コミュニケーションツールとしての音楽の言語的側面を考える。					
受講上の注意					
・提示する「パフォーマンス課題」を予習、復習において徹底研究してください。 ・受講に際しては、自らが研究したい楽曲の楽譜は必要部数を準備して授業に臨んでください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
成果発表パフォーマンス 100%					
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
動きやすい服装での参加を提示することがあります。			
教員実務経験			
ピアニスト			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後期授業の内容は、後期開始前に発表します。(8月末の予定)		
2	未定		
3	未定		
4	未定		
5	未定		
6	未定		
7	未定		
8	未定		
9	未定		
10	未定		
11	未定		

12	未定
13	未定
14	未定
15	後期の成果発表

科目名	演奏特殊研究Ⅳ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	辻 浩二				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の歴史の中で、最も重要な時期は、17・17 世紀といわれている。なぜなら、現代の音楽の基礎的な内容が最も発展した時期だからである。例えば、記譜法の進化・確立、楽器の発展、さらに音楽を取り巻く社会環境の変化が、めざましい。その内容について深く研究するとともに、その音楽芸術をいかに人々に伝えていくかという問題についても考え、今後の職業としての意識を高めていく。

授業概要

「正しい楽譜の読み方」という資料をもとに、楽譜の記譜法について研究する。この本は(バッハからシューベルトまで)という副題があり、現在の記譜法との違いから、当時の作曲家がどのような演奏を望んだのかを考える。そして、ニューヨークフィル・バーンスタインの「ヤング・ピープルズ・コンサート」のビデオを鑑賞をし、音楽教育の必要性・方法を考え、さらに、「芸術の売り方」という本を参考に、音楽マネジメントについて考えていく。

受講上の注意

映像や文献のみを一方向的に勉強するのではなく、お互いにディスカッションしながら表現方法についても積極的に議論してほしい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出課題の評価及び平常点	

教科書情報

教科書1	「正しい楽譜の読み方」バッハからシューベルトまで ウィーン音楽大学インゴマー・ライナー教授		
出版社名	株式会社現代ギター社	著者名	大島富士子
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	古楽とは何か		
出版社名	音楽之友社	著者名	ニコラウス・アーノンクール
参考書名2	芸術の売り方		
出版社名	英治出版	著者名	ジョアン・シェフ・バーンスタイン
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
これまでに、作曲専攻・器楽専攻とともに、新曲・編曲作品の演奏を実演。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義室での座学及び、音楽関連の DVD・CD 等の鑑賞 参加学生との演奏による実技		

科目名	演奏特殊研究Ⅳ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	栗山 和樹				
クラス名	後期:栗山先生は集中講義です。				

授業目的と到達目標

クラシック音楽演奏家であっても、演奏や教育の現場でポピュラー音楽を演奏する機会があるかと思います。このクラスでは、ポピュラー音楽の基礎を教養として学び、コード理論、ボイスング、コンピング、アドリブの基礎と共にジャズ史を学び、ポピュラー音楽理論の基礎力を身に付けることを目標とします。

授業概要

「ポピュラー音楽演奏の基礎」:ボサノバやジャズ・スタンダード・ナンバーを教材にメロディ・フェイクにはじまり、アドリブをトライしてみます。コード・ネームやスケールなどポピュラー音楽演奏に必要な基本事項を学び、コードやベースラインなど簡単なアレンジもトライしてみます。ジャズの歴史を俯瞰することにより、どうしてこのような技法ができたかを考えます。

受講上の注意

課題を必ず演習してみることに。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出課題の評価及び平常点	100

教科書情報

教科書1	授業内で配布するハンドアウト		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 日目 第1回授業「コードシンボル」 第2回「レフトハンド・ヴォイスिंगス」 第3回「フォー・ウェイ・クロース」 第4回「テンション①」 第5回 レフトハンド・ヴォイスिंगス実習 2 日目 第6回授業「テンション②」 第7回「テンション③と振り子ベース」 第8回「映画『ベニィ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史①」 第9回「映画『ベニィ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史②」 第10回		
2			

3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目名	演奏特殊研究Ⅴ		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	水口 聡					
クラス名						
授業目的と到達目標						
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む						
授業概要						
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も越えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。 対面授業						
受講上の注意						
各自が取り組む曲目のアナリゼ						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期1年次:正しい呼吸法のもと、歌唱において必要な自然で豊かな声を出すことを目指す。 前期2年次:個人のキャラクターに合わせたレパートリー作りをする。(ドラマ、スピント、リリコ、レッジャー口等の分類) 後期1年次:オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。 後期2年次:ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、「真の舞台人」の育成を図る 対面授業		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目名	演奏特殊研究Ⅴ		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	水口 聡					
クラス名						
授業目的と到達目標						
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む						
授業概要						
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も越えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。						
受講上の注意						
各自が取り組む曲目のアナリゼ						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期1年次:正しい呼吸法のもと、歌唱において必要な自然で豊かな声を出すことを目指す。 前期2年次:個人のキャラクターに合わせたレパートリー作りをする。(ドラマ、スピント、リリコ、レッジャー口等の分類) 後期1年次:オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。 後期2年次:ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、「真の舞台人」の育成を図る		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目名	音楽学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	樋口 光治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
西洋音楽の主要な形式やジャンルについて解説する。					
授業概要					
授業は対面で行う。ドイツ・リート、ロンド、ソナタ、オペラ、コンチェルト、グレゴリオ聖歌、中世・ルネサンスの声楽曲、シンフォニーなど、西洋音楽の主要な形式やジャンルを解説しながら、西洋音楽に固有の表現内容、表現方法を探究する。					
受講上の注意					
講義ノートを作成し、それに基づいて筆記試験に解答、ないしレポートを作成すること(筆記試験ないしレポート提出は最終授業)。基本的に自筆ノートに基づかないものは採点の対象とはならない。3分の2以上の出席は必須。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
筆記試験ないしレポート			100		
教科書情報					
教科書1	コピーを配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
3分の2以上の出席は必須(出席が足りない場合は単位取得は不可)。遅刻2回を欠席1回として計算する。最終的に遅刻に端数が出た場合、切り上げとする(例、1.5 回の遅刻は 2 回の欠席となる)。授業開始後10分以降の出席は遅刻扱い、30分以降の出席は欠席扱いとする。			
教員実務経験			
実務経験なし			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ドイツ・リート 1		
2	ドイツ・リート 2		
3	ドイツ・リート 3		
4	ドイツ・リート 4		
5	ロンド形式 1		
6	ロンド形式 2		
7	ロンド形式 3		
8	ソナタの語源と歴史		
9	ソナタの歴史 1		

10	ソナタの歴史 2
11	古典派のソナタ形式
12	オペラ 1
13	オペラ 2
14	オペラ 3
15	まとめとテスト
16	コンチェルトの語源と歴史
17	トリオ・ソナタと合奏協奏曲
18	バロック時代の独創協奏曲とリトルネッロ形式
19	古典派協奏曲
20	グレゴリオ聖歌 1
21	グレゴリオ聖歌 2
22	グレゴリオ聖歌の声楽様式
23	中世のオルガヌム
24	中世のモテット
25	ルネサンスのモテット
26	ルネサンスの声楽様式
27	バロック時代の管弦楽曲
28	古典派交響曲
29	ロマン派交響曲
30	まとめとテスト

科目名	音楽学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	樋口 光治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
西洋音楽の主要な形式やジャンルについて解説する。					
授業概要					
授業は対面で行う。ドイツ・リート、ロンド、ソナタ、オペラ、コンチェルト、グレゴリオ聖歌、中世・ルネサンスの声楽曲、シンフォニーなど、西洋音楽の主要な形式やジャンルを解説しながら、西洋音楽に固有の表現内容、表現方法を探究する。					
受講上の注意					
授業内容に基づいて自筆ノートを作成すること。試験の解答ないしレポート作成は基本的に自筆ノートに基づくこと(自筆ノートに基づかないものは採点の対象とはならない)。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
筆記試験ないしレポート			100		
教科書情報					
教科書1	コピーを配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
3分の2以上の出席は必須。遅刻2回を欠席1回として計算する(3分の2の出席とは遅刻のない出席数とする)。			
教員実務経験			
実務経験なし			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ドイツ・リート 1		
2	ドイツ・リート 2		
3	ドイツ・リート 3		
4	ドイツ・リート 4		
5	ロンド形式 1		
6	ロンド形式 2		
7	ロンド形式 3		
8	ソナタの語源と歴史		
9	ソナタの歴史 1		
10	ソナタの歴史 2		

11	古典派のソナタ形式
12	オペラ 1
13	オペラ 2
14	オペラ 3
15	まとめとテスト
16	コンチェルトの語源と歴史
17	トリオ・ソナタと合奏協奏曲
18	バロック時代の独創協奏曲とリトルネッロ形式
19	古典派協奏曲
20	グレゴリオ聖歌 1
21	グレゴリオ聖歌 2
22	グレゴリオ聖歌の声楽様式
23	中世のオルガヌム
24	中世のモテット
25	ルネサンスのモテット
26	ルネサンスの声楽様式
27	バロック時代の管弦楽曲
28	古典派交響曲
29	ロマン派交響曲
30	まとめとテスト

科目名	音楽学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					
授業目的と到達目標					
前期 「ラテン・アメリカの芸術音楽」というテーマで、ラテン・アメリカの芸術音楽の独自性について考える。 後期 「文化の中の音楽」というテーマで、文化的な様々な関係の視点から音楽について考える。					
授業概要					
対面授業 前期 ラテン・アメリカの音楽の芸術音楽の代表的な作曲家の作品を軸に、民俗音楽との関わりなども視野に入れながら、ラテン・アメリカの芸術音楽の特質について考える。 後期 音楽は、そのみが独立してあるわけではなく、様々な人間の交流や、他の芸術ジャンルとの影響関係の中で生まれてくる。フランス近代の音楽を例にして、文化とどのように関わっているかという点から、音楽について考える。					
受講上の注意					
常に音楽の実感を持ちながら考えること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末レポート			100		
教科書情報					
教科書1	使用しない。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	19 世紀前半のブラジルの音楽(1)ジョゼ・マウリシオ・ガルシアとキリスト教の音楽		
2	19 世紀後半のブラジルの音楽(2)アントニオ・ゴメスとイタリア・オペラ、アレシャンドリ・レヴィの民族主義		
3	19 世紀後半のキューバの音楽 イグナシオ・セルバンテスの民族的な演奏会用音楽、ホアキン・ニン		
4	アウベルト・ネボムセーノとブラジルにおける音楽の国民主義、「ブラジルのショパン」エルネスト・ナザレ		
5	アルベルト・ウィリアムス(アルゼンチン)における音楽の様式の変化、「メキシコ原住民の魂」とマヌエル・ポンセ(メキシコ)の音楽		
6	20 世紀前半のメキシコの音楽(1)カルロス・チャベスとインディオの文化、シルベストレ・レブエルタスとラテン・アメリカの民衆音楽のリズム、プラス・ガリンド・ディマスと民俗楽器		

7	20 世紀前半のメキシコの音楽(2)ミゲル・ベルナル・ヒメネスの保守的な音楽、ホセ・パブロ・モンカージョ・ガルシア、サルバドル・コントレーラス、ダニエル・アヤラ・ペレス、ミゲル・ベルナル・ヒメネス
8	20 世紀前半のキューバの音楽 アマデオ・ロルダン、アレハンドロ・カトゥラとアフローキューバン・リズム
9	ベネズエラの音楽(ピセンテ・ソホ)、アルゼンチンの音楽(フアン・ホセ・カストロ、カルロス・ロペス・ブチャルド ルイス・ヒアネーオ)、チリの音楽(ペドロ・ウンベルト・アジェンデ)、ウルグアイの音楽
10	エイトル・ヴィラ＝ロボス(ブラジル) J・S・バッハと「ブラジルの魂」
11	カマルゴ・グアルニエリ(ブラジル)、フランシスコ・ミニョーネ(ブラジル)
12	アルベルト・エバリスト・ヒナステラ(アルゼンチン)の客観的民族主義、アグスティン・バリオス＝マンガレ(パラグアイ)、オスカル・フェルナンデス(ブラジル)
13	エルネスト・レクオーナ(キューバ)、レオ・プロウウェル(キューバ)
14	アストル・ピアソラ(アルゼンチン)とタンゴ
15	国民主義への反対あるいは無関心
16	国民音楽協会の設立と「ガリアの芸術」
17	国民音楽協会設立より前のフランスの音楽の状況 特に、ロッシーニやマイヤベーアのオペラ
18	浮世絵が知られたことを契機とした日本趣味(ジャポニスム)の起こりと広がり
19	音楽における日本趣味(1) 題材や、声楽作品および俳句と和歌を中心して
20	音楽における日本趣味(2) サン＝サーンスの《黄色い女王》など、オペラを中心として
21	オリエンタリズム(1) アラブ世界への関心
22	オリエンタリズム(2) アジアへの関心 器楽曲を中心として
23	オリエンタリズム(3) アジアへの関心 声楽曲(オペラを含む)を中心として
24	パリ万博と音楽(1)1855 年、1867 年、1878 年の万博
25	パリ万博と音楽(2)1889 年の万博 インドネシアのガムラン、民族音楽合奏団、安南劇を中心として
26	音楽家と他のジャンルの芸術家(1) 音楽家と画家との交流
27	音楽家と他のジャンルの芸術家(2) サロンの役割およびパレエを中心として
28	音楽家と他のジャンルの芸術家(3) 音楽家と文学者との交流 特に、ドビュッシーとマラルメ
29	コンサート・ホール以外の音楽の場(1) カフェ・コンセールやキャバレー
30	コンサート・ホール以外の音楽の場(2) ミュージック・ホール

科目名	音楽学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標

前期|「ラテン・アメリカの芸術音楽」というテーマで、ラテン・アメリカの芸術音楽の独自性について考える。|後期|「文化の中の音楽」というテーマで、文化的な様々な関係の視点から音楽について考える。 | |

授業概要

対面授業|前期| ラテン・アメリカの音楽の芸術音楽の代表的な作曲家の作品を軸に、民俗音楽との関わりなども視野に入れながら、ラテン・アメリカの芸術音楽の特質について考える。|後期| 音楽は、そのみが独立してあるわけではなく、様々な人間の交流や、他の芸術ジャンルとの影響関係の中で生まれてくる。フランス近代の音楽を例にして、文化とどのように関わっているかという点から、音楽について考える。 | |

受講上の注意

常に音楽の実感を持ちながら考えること。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
期末レポート	100

教科書情報

教科書1	使用しない。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	19 世紀前半のブラジルの音楽(1)ジョゼ・マウリシオ・ガルシアとキリスト教の音楽		
2	19 世紀後半のブラジルの音楽(2)アントニオ・ゴメスとイタリア・オペラ、アレシャンドリ・レヴィの民族主義		
3	19 世紀後半のキューバの音楽 イグナシオ・セルバンテスの民族的な演奏会用音楽、ホアキン・ニン		
4	アウベルト・ネボムセーノとブラジルにおける音楽の国民主義、「ブラジルのショパン」エルネスト・ナザレ		
5	アルベルト・ウィリアムス(アルゼンチン)における音楽の様式の変化、「メキシコ原住民の魂」とマヌエル・ポンセ(メキシコ)の音楽		
6	20 世紀前半のメキシコの音楽(1)カルロス・チャベスとインディオの文化、シルベストレ・レブエルタスとラテン・アメリカの民衆音楽のリズム、ブラス・ガリンド・ディマスと民俗楽器		

7	20 世紀前半のメキシコの音楽(2)ミゲル・ベルナル・ヒメネスの保守的な音楽、ホセ・パブロ・モンカージョ・ガルシア、サルバドル・コントレーラス、ダニエル・アヤラ・ペレス、ミゲル・ベルナル・ヒメネス
8	20 世紀前半のキューバの音楽 アマデオ・ロルダン、アレハンドロ・カトゥラとアフローキューバン・リズム
9	ベネズエラの音楽(ピセンテ・ソホ)、アルゼンチンの音楽(フアン・ホセ・カストロ、カルロス・ロペス・ブチャルド ルイス・ヒアネーオ)、チリの音楽(ペドロ・ウンベルト・アジェンデ)、ウルグアイの音楽
10	エイトル・ヴィラ＝ロボス(ブラジル) J・S・バッハと「ブラジルの魂」
11	カマルゴ・グアルニエリ(ブラジル)、フランシスコ・ミニョーネ(ブラジル)
12	アルベルト・エバリスト・ヒナステラ(アルゼンチン)の客観的民族主義、アグスティン・バリオス＝マンガレ(パラグアイ)、オスカル・フェルナンデス(ブラジル)
13	エルネスト・レクオーナ(キューバ)、レオ・プロウウェル(キューバ)
14	アストル・ピアソラ(アルゼンチン)とタンゴ
15	国民主義への反対あるいは無関心
16	国民音楽協会の設立と「ガリアの芸術」
17	国民音楽協会設立より前のフランスの音楽の状況 特に、ロッシーニやマイヤベーアのオペラ
18	浮世絵が知られたことを契機とした日本趣味(ジャポニスム)の起こりと広がり
19	音楽における日本趣味(1) 題材や、声楽曲および俳句と和歌を中心して
20	音楽における日本趣味(2) サン＝サーンスの《黄色い女王》など、オペラを中心として
21	オリエンタリズム(1) アラブ世界への関心
22	オリエンタリズム(2) アジアへの関心 器楽曲を中心として
23	オリエンタリズム(3) アジアへの関心 声楽曲(オペラを含む)を中心として
24	パリ万博と音楽(1)1855 年、1867 年、1878 年の万博
25	パリ万博と音楽(2)1889 年の万博 インドネシアのガムラン、民族音楽合奏団、安南劇を中心として
26	音楽家と他のジャンルの芸術家(1) 音楽家と画家との交流
27	音楽家と他のジャンルの芸術家(2) サロンの役割およびパレエを中心として
28	音楽家と他のジャンルの芸術家(3) 音楽家と文学者との交流 特に、ドビュッシーとマラルメ
29	コンサート・ホール以外の音楽の場(1) カフェ・コンセールやキャバレー
30	コンサート・ホール以外の音楽の場(2) ミュージック・ホール

科目名	音楽芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					
授業目的と到達目標					
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。					
授業概要					
・対面授業 ・音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。					
受講上の注意					
西洋において音楽は古来、学問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各自で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	必要があれば、授業中に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	第1回: ガイダンス 第2回: 音とは何か: 生活音① 第3回: 音とは何か: 生活音② 第4回: 音とは何か: 自然音 第5回: 音楽における音① 第6回: 音楽における音② 第7回: 調性について① 第8回: 調性について② 第9回: 音楽的リズムについて 第10回: ソナタ形式について 第11回: 音楽と時間① 第12回: 音楽と時間② 第13回: 音楽的時間 第14回: 音楽における時間のかたち		

	第 15 回:前期のまとめ
--	---------------

科目名	音楽芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					
授業目的と到達目標					
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。					
授業概要					
・対面授業 ・音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。					
受講上の注意					
西洋において音楽は古来、学問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各自で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	必要があれば、授業中に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入: 西洋の音楽思想の概略		
2	古代ギリシアの音楽観		
3	中世・ルネサンスの音楽観①		
4	中世・ルネサンスの音楽観②		
5	近世の音楽観		
6	近代の音楽観①		
7	近代の音楽観②		
8	現代(20 世紀)の音楽観①		
9	現代(20 世紀)の音楽観②		
10	音楽美学・音楽哲学の諸問題①		
11	音楽美学・音楽哲学の諸問題②		
12	音楽美学・音楽哲学の諸問題③		

13	音楽美学・音楽哲学の諸問題④
14	後期のまとめ
15	音楽藝術あるいはアートとしての音楽の展墓

科目名	音楽史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	樋口 光治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
西洋音楽の歴史とその理論を概観することによって、文化としての音楽の理解を深める。					
授業概要					
授業は対面で行う。ヨーロッパの中世からロマン派時代にかけて作曲された作品を概観すると共に、それらの作品を生み出す背景となった当時の社会状況を、作品と関連させながら考察する。					
受講上の注意					
講義ノートを作成し、それに基づいて筆記試験に解答、ないしレポートを作成すること(筆記試験ないしレポート提出は最終授業)。基本的に自筆ノートに基づかないものは採点の対象とはならない。3 分の 2 以上の出席は必須。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
筆記試験ないしレポート			100		
教科書情報					
教科書1	必要に応じて授業中にコピーを配布。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要に応じてその都度授業中に指示。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
3分の2以上の出席は必須(出席が足りない場合は単位取得は不可)。遅刻 2 回を欠席1回として計算する。最終的に遅刻に端数が出た場合、切り上げとする(例、1.5 回の遅刻は2回の欠席となる)。授業開始後 10 分以降の出席は遅刻扱い、30 分以降の出席は欠席扱いとする。			
教員実務経験			
実務経験なし。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1、グレゴリオ聖歌とミサ曲 1 2、グレゴリオ聖歌とミサ曲 2 3、教会旋法 4、単旋律とポリフォニー 5、中世のオルガヌム 6、中世のモテット 7、15世紀イギリスの音楽 8、ブルゴーニュ楽派 9、フランドル楽派 1 10、フランドル楽派 2 11、16世紀後期のヨーロッパ音楽		

	12、マドリガーレ(ルネサンスからバロックへ)
	13、ヴェネツィア楽派
	14、パレストリーナ
	15、まとめと筆記試験
	16、バロック・オペラ 1
	17、バロック・オペラ 2
	18、バロック・オラトリオ
	19、トリオ・ソナタ
	20、合奏協奏曲

科目名	音楽史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	樋口 光治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
西洋音楽の歴史とその理論を概観することによって、文化としての音楽の理解を深める。					
授業概要					
授業は対面で行う。ヨーロッパの中世からロマン派時代にかけて作曲された作品を概観すると共に、それらの作品を生み出す背景となった当時の社会状況を、作品と関連させながら考察する。					
受講上の注意					
講義ノートを作成し、それに基づいて筆記試験に解答ないしレポートを作成すること。3 分の 2 以上の出席は必須。					
成績評価方法・基準					
種別			割合 (%)		
筆記試験ないしレポート			100		
教科書情報					
教科書1	必要に応じて授業中にコピーを配布。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要に応じてその都度授業中に指示。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
出席に関しては、本学の規定どおり 3 分の 2 を確保すること。遅刻は 2 分の 1 回の欠席として計算する。遅刻に端数が出た場合、切り上げとする(例えば 1.5 回の遅刻は 2 回の欠席となる)授業開始後 10 分以降の出席は遅刻扱い、30 分以降の出席は欠席扱いとする。筆記試験の解答ないしレポート作成に際しては自筆ノートに基づくこと。(自筆ノートに基づかないものは採点の対象とはならないので注意すること)。			
教員実務経験			
実務経験なし。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1、グレゴリオ聖歌とミサ曲 1 2、グレゴリオ聖歌とミサ曲 2 3、教会旋法 4、単旋律とポリフォニー 5、中世のオルガヌム 6、中世のモテット 7、15世紀イギリスの音楽 8、ブルゴーニュ楽派 9、フランドル楽派 1 10、フランドル楽派 2		

	11、16世紀後期のヨーロッパ音楽
	12、マドリガーレ(ルネサンスからバロックへ)
	13、ヴェネツィア楽派
	14、パレストリーナ
	15、まとめと筆記試験
	16、バロック・オペラ 1
	17、バロック・オペラ 2
	18、バロック・オラトリオ
	19、トリオ・ソナタ
	20、合奏協奏曲

科目名	絵画研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫					
クラス名						
授業目的と到達目標						
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。						
授業概要						
対面授業で行っていく。 ニコマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会 をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の 信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。						
受講上の注意						
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画 2回目 自主制作① 3回目 自主制作② 4回目 自主制作③ 5回目 自主制作④ 6回目 絵画研究① 7回目 自主制作⑤ 8回目 自主制作⑥ 9回目 自主制作⑦ 10回目 絵画研究② 11回目 自主制作⑧ 12回目 自主制作⑨		

	13 回目 自主制作⑩
	14 回目 作家研究発表
	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。|作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。|主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。

授業概要

対面授業|教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。

受講上の注意

準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。|受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。|また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。|②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【第1回】授業概要説明。主題・構想について協議 【第2回】表現方法・技法について協議 【第3回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第4回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第5回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第6回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第7回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第8回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第9回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第10回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第11回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第12回】作品制作。授業開始時に個別指導		

	【第 13 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 14 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 15 回】鑑賞・合評, まとめ
--	---

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数 500 号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。					
授業概要					
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。					
受講上の注意					
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
教員の制作について {久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp}			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会会員としての制作や発表の経験やスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識を総合的に修得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察① 2.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察② 3.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究① 4.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究② 5.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究③ 6.表現、技術、素材についての研究① 7.表現、技術、素材についての研究② 8.表現、技術、素材についての研究③ 9.表現、技術、素材についての研究④		

	10.表現、技術、素材についての研究⑤
	11.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)①
	12.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)②
	13.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)③
	14.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)④
	15.美術業界について(画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版)

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行っていく。 ニコマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会 をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の 信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後 期 1 回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画 2 回目 自主制作① 3 回目 自主制作② 4 回目 自主制作③ 5 回目 自主制作④ 6 回目 絵画研究① 7 回目 自主制作⑤ 8 回目 自主制作⑥ 9 回目 自主制作⑦ 10 回目 絵画研究② 11 回目 自主制作⑧ 12 回目 自主制作⑨		

	13 回目 自主制作⑩
	14 回目 作家研究発表
	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					
授業目的と到達目標					
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。					
授業概要					
対面授業。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現のための技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。					
受講上の注意					
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【第 16 回】授業概要説明。主題・構想について協議 【第 17 回】表現方法・技法について協議 【第 18 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 19 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 20 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 21 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 22 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 23 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 24 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 25 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 26 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 27 回】作品制作。授業開始時に個別指導		

	【第 28 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 29 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 30 回】鑑賞・合評, まとめ
--	--

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数 500 号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。					
授業概要					
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。					
受講上の注意					
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp}			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会会員としての制作や発表の経験やスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識を総合的に修得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察 2.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究 3.表現、技術、素材についての研究① 4.表現、技術、素材についての研究② 5.表現、技術、素材についての研究③ 6.表現、技術、素材についての研究④ 7.表現、技術、素材についての研究⑤ 8.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)① 9.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)② 10.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)③		

	11.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)④ 12.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)⑤ 13.年度末発表に向けた展示計画 14.制作の総括、日本画語句テスト 15.制作の総括、講評会
--	---

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行っていく。 ニコマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会 をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の 信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
受講上の注意					
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画 2回目 自主制作① 3回目 自主制作② 4回目 自主制作③ 5回目 自主制作④ 6回目 絵画研究① 7回目 自主制作⑤ 8回目 自主制作⑥ 9回目 自主制作⑦ 10回目 絵画研究② 11回目 自主制作⑧ 12回目 自主制作⑨		

	13 回目 自主制作⑩
	14 回目 作家研究発表
	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。|作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。|主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。

授業概要

対面授業。|教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現のための技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。

受講上の注意

準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。|受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。|また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。|②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【第1回】授業概要説明。主題・構想について協議 【第2回】表現方法・技法について協議 【第3回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第4回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第5回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第6回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第7回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第8回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第9回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第10回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第11回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第12回】作品制作。授業開始時に個別指導		

	【第 13 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 14 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 15 回】鑑賞・合評, まとめ
--	---

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					

授業目的と到達目標

精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。

授業概要

対面授業|教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作|を通して、画論や画材の研究・技法の理解等を多く学習し、作家としての|在り方を把握する。|後期博士課程では、論文の準備を早くからする。また、主査、副査とのミーティングを重ねる。個展、グループ展、団体展等に積極的に参加して、|大作(100号以上)を数多く制作し、実力を備えた専門家の育成を目指す。これまでの作家活動を通して培った経験を講座に反映させる。

受講上の注意

・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	モチーフは自由		

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数 500 号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。					
授業概要					
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。					
受講上の注意					
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベル、クオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会会員としての制作や発表の経験やスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識を総合的に修得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察① 2.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察② 3.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究① 4.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究② 5.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究③ 6.表現、技術、素材についての研究① 7.表現、技術、素材についての研究② 8.表現、技術、素材についての研究③ 9.表現、技術、素材についての研究④ 10.表現、技術、素材についての研究⑤		

	11.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)①
	12.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)②
	13.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)③
	14.発表について(額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEB や SNS)④
	15.美術業界について(画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版)

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行っていく。 ニコマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会 をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の 信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後 期 1 回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画 2 回目 自主制作① 3 回目 自主制作② 4 回目 自主制作③ 5 回目 自主制作④ 6 回目 絵画研究① 7 回目 自主制作⑤ 8 回目 自主制作⑥ 9 回目 自主制作⑦ 10 回目 絵画研究② 11 回目 自主制作⑧ 12 回目 自主制作⑨		

	13 回目 自主制作⑩
	14 回目 作家研究発表
	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					
授業目的と到達目標					
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。					
授業概要					
対面授業。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現のための技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。					
受講上の注意					
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
制作姿勢・研究心			20		
教科書情報					
教科書1	授業の中で案内する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【第 16 回】授業概要説明。主題・構想について協議 【第 17 回】表現方法・技法について協議 【第 18 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 19 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 20 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 21 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 22 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 23 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 24 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 25 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 26 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 27 回】作品制作。授業開始時に個別指導		

	【第 28 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 29 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 30 回】鑑賞・合評, まとめ
--	--

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数 500 号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。					
授業概要					
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。					
受講上の注意					
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品のレベルとクオリティー			70		
作品発表と成果			15		
制作姿勢			15		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリント等を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{久世直幸オフィシャルサイト,https://kuzenaoyuki.com} {一般社団法人 創画会,https://www.sogakai.or.jp}			
特記事項			
教員実務経験			
日本画家で一般社団法人創画会会員としての制作や発表の経験やスキルを活かし、日本画の表現技法や思考法、制作や発表に関する知識を総合的に修得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察 2.取材(テーマ、モチーフ、手法)の研究 3.表現、技術、素材についての研究① 4.表現、技術、素材についての研究② 5.表現、技術、素材についての研究③ 6.表現、技術、素材についての研究④ 7.表現、技術、素材についての研究⑤ 8.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)① 9.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)② 10.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)③		

	11.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)④ 12.日本画材料についての再考(和紙、岩絵の具、染料、箔)⑤ 13.年度末発表に向けた展示計画 14.制作の総括、日本画語句テスト 15.制作の総括、講評会
--	---

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行っていく。実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
受講上の注意					
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画 2回目 自主制作① 3回目 自主制作② 4回目 自主制作③ 5回目 自主制作④ 6回目 絵画研究① 7回目 自主制作⑤ 8回目 自主制作⑥ 9回目 自主制作⑦ 10回目 絵画研究② 11回目 自主制作⑧ 12回目 自主制作⑨		

	13 回目 自主制作⑩
	14 回目 作家研究発表
	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。|作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。|主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。

授業概要

対面授業。|教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現のための技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。

受講上の注意

準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。|受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。|また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。|②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【第1回】授業概要説明。主題・構想について協議 【第2回】表現方法・技法について協議 【第3回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第4回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第5回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第6回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第7回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第8回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第9回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第10回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第11回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第12回】作品制作。授業開始時に個別指導		

	【第 13 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 14 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 15 回】鑑賞・合評, まとめ
--	---

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。					
授業概要					
対面授業で行っていく。 ニコマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会 をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の 信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後 期 1 回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画 2 回目 自主制作① 3 回目 自主制作② 4 回目 自主制作③ 5 回目 自主制作④ 6 回目 絵画研究① 7 回目 自主制作⑤ 8 回目 自主制作⑥ 9 回目 自主制作⑦ 10 回目 絵画研究② 11 回目 自主制作⑧ 12 回目 自主制作⑨		

	13 回目 自主制作⑩
	14 回目 作家研究発表
	15 回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。|作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。|主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。

授業概要

対面授業。|教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為に技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。

受講上の注意

準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。|受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。|また、常に①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。|②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【第 16 回】授業概要説明。主題・構想について協議 【第 17 回】表現方法・技法について協議 【第 18 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 19 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 20 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 21 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 22 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 23 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 24 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 25 回】作品制作。授業開始時に個別指導		

	【第 26 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 27 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 28 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 29 回】作品制作。授業開始時に個別指導 【第 30 回】鑑賞・合評, まとめ
--	---

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	三好 正豊					
クラス名						
授業目的と到達目標						
研究テーマの制作に対し、自主性に重きを置き表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。						
授業概要						
研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。						
受講上の注意						
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作の支障のない範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
制作作品				50		
作品制作姿勢				50		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	工芸家のための金属ノート					

出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具制作に従事・公益社団法人日本工芸会金工部会副部長・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定		
3	各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定		
4	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
5	研究テーマに沿った素材、技術の研究及び修練。		
6	研究テーマに沿った素材、技術の研究及び修練。		
7	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
8	研究テーマに沿って素材、技術のの研究及び修練。		
9	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
10	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
11	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		

12	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
13	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。					
授業概要					
【対面授業】 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
受講上の注意					
教室での課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
月毎のレポート			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com			
特記事項			
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。			
教員実務経験			
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。		
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。		
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		

6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	山野 宏					
クラス名	.					
授業目的と到達目標						
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。						
授業概要						
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作 を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレ ベルアップを目指す。						
受講上の注意						
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1	.					
出版社名	.		著者名	.		
教科書2	.					
出版社名	.		著者名	.		
教科書3	.					
出版社名	.		著者名	.		
参考書情報						
参考書名1	.					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。		
2	個人面談/制作の方向性について。		
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。		
4	文章についての討論、校正。		
5	個人面談、制作アドバイス		
6	個人面談、制作アドバイス		
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。		
8	文章についての討論、校正。		
9	個人面談、制作アドバイス		
10	個人面談、制作アドバイス		
11	個人面談、制作アドバイス		
12	個人面談、制作アドバイス		

13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。					
授業概要					
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。					
受講上の注意					
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			80		
提出物			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	プレゼンテーション		
2	プレゼンテーション		
3	研究計画の面接指導		
4	アイデアスケッチ、マケット制作		
5	アイデアスケッチ、マケット制作		
6	素材研究		
7	素材研究		
8	作品制作		
9	作品制作		
10	作品制作		
11	作品制作		

12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	三好 正豊					
クラス名						
授業目的と到達目標						
作品制作に対して表現方法や技術面のサポートしながら制作作品に相応しい作品を目指す。						
授業概要						
作品制作の技術指導						
受講上の注意						
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 前期研究テーマによって修得した技術の集大成となる学位作品制作に努める。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
制作作品				50		
制作姿勢				50		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	工芸家のための金属ノート					
出版社名	アグネス技術センター		著者名	鹿取一男		

参考書名2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具制作に従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期に引き続き研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
2	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
3	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
4	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
5	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
6	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
7	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
8	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
9	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
10	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修		
11	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練		
12	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練		
13	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練		

14	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。					
授業概要					
【対面授業】受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
受講上の注意					
教室での課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出し、報告を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
レポート			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com			
特記事項			
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。			
教員実務経験			
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
2	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
3	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。		
4	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
5	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		

6	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
7	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
10	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
14	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
15	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 後期最終合評。

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	山野 宏					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。						
授業概要						
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作 を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。						
受講上の注意						
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/後期作品制作の方向性について個人、個人と話す。		
2	個人面談/制作の方向性について		
3	制作コンセプトについて		
4	卒業制作についてのラフなプレゼンテーション		
5	卒業制作プレゼンテーション		
6	個人面談、制作アドバイス		
7	個人面談、制作アドバイス		
8	個人面談、制作アドバイス		
9	個人面談、制作アドバイス		
10	個人面談、制作アドバイス		
11	個人面談、制作アドバイス		
12	個人面談、制作アドバイス		

13	個人面談、制作アドバイス
14	卒業制作講評会
15	後期反省会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標

陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。

授業概要

対面授業|陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。|教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。|展覧会場に作品展示。

受講上の注意

美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
作品	80
提出物	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	作品制作の経過報告		
2	研究計画の面接指導		
3	作品制作		
4	作品制作		
5	作品制作		
6	作品制作		
7	作品制作		
8	作品焼成		
9	作品焼成		
10	作品完成への最終工程		
11	作品の展示計画		

12	展示の備品制作
13	作品展示
14	自作についてのレクチャー
15	講評、研究概要報告書の面接指導

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマの制作に対し、自主性に重きをおき表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。					
授業概要					
研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。					
受講上の注意					
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作の支障のない範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			50		
作品制作姿勢			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート				

出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名2	黄金友情(金工のものがたり)		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具制作に従事、大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
3	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
4	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
5	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
6	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
7	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
8	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
9	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
10	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
11	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		
12	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定		

13	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
14	各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
15	合評

科目名	工芸研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	小野山 和代					
クラス名						
授業目的と到達目標						
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。						
授業概要						
【対面授業】受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。						
受講上の注意						
教室での課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品提出				70		
月毎のレポート				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com			
特記事項			
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。			
教員実務経験			
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。		
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。		
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		

6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。

科目名	工芸研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	山野 宏					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。						
授業概要						
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作 を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。						
受講上の注意						
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。		
2	個人面談/制作の方向性について。		
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。		
4	文章についての討論、校正。		
5	個人面談、制作アドバイス		
6	個人面談、制作アドバイス		
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。		
8	文章についての討論、校正。		
9	個人面談、制作アドバイス		
10	個人面談、制作アドバイス		
11	個人面談、制作アドバイス		
12	個人面談、制作アドバイス		

13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	田嶋 悦子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
今までの研究をさらに推し進めながら作品制作を行い、学位取得に相応しい作品を目指す。創作者としての意識を高める。						
授業概要						
対面授業 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展示会場に作品展示。記述文章の検証。						
受講上の注意						
美術館および画廊で開催される展示会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品				80		
提出物				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
田嶋悦子:陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	プレゼンテーション		
2	プレゼンテーション		
3	研究計画の面接指導		
4	アイデアスケッチ、マケット制作		
5	アイデアスケッチ、マケット制作		
6	素材研究		
7	素材研究		
8	作品制作		
9	作品制作		
10	作品制作		
11	作品制作		
12	作品制作		

13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学位作品制作に対して表現や技術面のサポートしながら学位作品に相応わしい作品制作を目指す。					
授業概要					
研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。					
受講上の注意					
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作に支障のない範囲で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			50		
作品制作要旨			30		
制作姿勢			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート				
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男		

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	作品制作の進捗状況チェック		
2	作品製作		
3	作品製作		
4	作品製作		
5	作品製作		
6	作品製作		
7	作品製作		
8	作品製作		
9	作品製作		
10	作品製作		
11	作品製作		
12	作品製作、学位作品制作要旨作成		
13	作品製作、学位作品製作要旨作成		

14	作品作成、学位作品製作要旨作成
15	合評

科目名	工芸研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	小野山 和代					
クラス名						
授業目的と到達目標						
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。						
授業概要						
【対面授業】受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。						
受講上の注意						
教室での課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出し、報告を行う。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品提出				70		
レポート				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com			
特記事項			
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。			
教員実務経験			
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
2	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
3	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
4	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
5	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		

6	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。必要に応じて随時スライドをおこなう。
7	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作要旨についての指導をおこなう。
13	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作要旨についての指導をおこなう。
14	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作要旨についての指導をおこなう。
15	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 後期最終合評。

科目名	工芸研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	山野 宏					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。						
授業概要						
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作 を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。						
受講上の注意						
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。		
2	個人面談/制作の方向性について		
3	制作コンセプトについて		
4	卒業制作についてのラフなプレゼンテーション		
5	卒業制作プレゼンテーション		
6	個人面談、制作アドバイス		
7	個人面談、制作アドバイス		
8	個人面談、制作アドバイス		
9	個人面談、制作アドバイス		
10	個人面談、制作アドバイス		
11	個人面談、制作アドバイス		
12	個人面談、制作アドバイス		

13	個人面談、制作アドバイス
14	卒業制作講評会
15	後期反省会

科目名	工芸研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	田嶋 悦子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
今までの研究をさらに推し進めながら作品制作を行い、学位取得に相応しい作品を目指す。創作者としての意識を高める。						
授業概要						
対面授業 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展覧会場に作品展示。記述文章の検証。						
受講上の注意						
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品				80		
提出物				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
田嶋悦子:陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	作品制作の経過報告		
2	研究計画および、制作要旨についての面接指導		
3	作品制作		
4	作品制作		
5	作品制作		
6	作品制作		
7	作品制作		
8	作品焼成		
9	作品焼成		
10	作品完成への最終工程		
11	作品の展示計画		
12	作品の展示計画		

13	備品制作
14	自作についてのレクチャー、制作要旨の面接指導
15	講評、制作要旨の面接指導

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマの制作に対し、自主性に重きを置き表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。					
授業概要					
研究テーマに沿って素材、表現方法の研究及び研修。					
受講上の注意					
新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作に支障の無い範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート				

出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定。		
3	各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定。		
4	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
5	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
6	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
7	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
8	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
9	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
10	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
11	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
12	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		

13	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	合評

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	小野山 和代					
クラス名						
授業目的と到達目標						
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。						
授業概要						
【対面授業】 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。						
受講上の注意						
教室での課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品提出				70		
月毎のレポート				30		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com			
特記事項			
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。			
教員実務経験			
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
2	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。		
3	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。		
4	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
5	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		

6	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
7	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
10	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。
13	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
15	各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野に たった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	山野 宏					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。						
授業概要						
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作 を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己評価を通しさらなる作品のレ ベルアップを目指す。						
受講上の注意						
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/後期の作品制作の方向性について個人で話す。		
2	個人面談/制作の方向性について。		
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。		
4	文章についての討論、校正。		
5	個人面談、制作アドバイス		
6	個人面談、制作アドバイス		
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。		
8	文章についての討論、校正。		
9	個人面談、制作アドバイス		
10	個人面談、制作アドバイス		
11	個人面談、制作アドバイス		
12	個人面談、制作アドバイス		

13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	後期講評会

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	田嶋 悦子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。						
授業概要						
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。						
受講上の注意						
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品				80		
提出物				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	プレゼンテーション		
2	プレゼンテーション		
3	研究計画の面接指導		
4	アイデアスケッチ、マケット制作		
5	アイデアスケッチ、マケット制作		
6	素材研究		
7	素材研究		
8	作品制作		
9	作品制作		
10	作品制作		
11	作品制作		

12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	焼成に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
研究テーマの製作に対し、自主性に重きを置き表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。					
授業概要					
研究テーマに沿った素材、表現方法の研究及び研修。					
受講上の注意					
コロナ感染症感染予防策を厳守すること。 学外の公募展、各種イベントに研究制作の支障のない範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			50		
制作姿勢			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート				

出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期に引き続き研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
2	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
3	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
4	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
5	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
6	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練		
7	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
8	研究テーマに沿った素材、技術の研究及び修練。		
9	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
10	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
11	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		
12	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。		

13	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。					
授業概要					
【対面授業】受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。					
受講上の注意					
教室での課題のみにとりくむのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出し、報告を行う。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			70		
レポート			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling21.com			
特記事項			
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。			
教員実務経験			
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
2	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
3	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
4	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		
5	前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。		

6	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
7	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
10	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
13	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
14	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
15	前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 後期最終合評。

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	山野 宏					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。						
授業概要						
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作 を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレ ベルアップを目指す。						
受講上の注意						
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス/後期の作品制作の方向性について個人で話す。		
2	個人面談/制作の方向性について		
3	制作コンセプトについて		
4	卒業制作についてのラフなプレゼンテーション		
5	卒業制作プレゼンテーション		
6	個人面談、制作アドバイス		
7	個人面談、制作アドバイス		
8	個人面談、制作アドバイス		
9	個人面談、制作アドバイス		
10	個人面談、制作アドバイス		
11	個人面談、制作アドバイス		
12	個人面談、制作アドバイス		

13	個人面談、制作アドバイス
14	卒業制作講評会
15	後期反省会

科目名	工芸研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	田嶋 悦子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。						
授業概要						
陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。展示会場に作品展示。						
受講上の注意						
美術館および画廊で開催される展示会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品				80		
提出物				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
田嶋悦子: 陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	作品制作の経過報告		
2	研究計画の面接指導		
3	作品制作		
4	作品制作		
5	作品制作		
6	作品制作		
7	作品制作		
8	作品焼成		
9	作品焼成		
10	作品完成への最終工程		
11	作品の展示計画		

12	展示の備品制作
13	作品展示
14	自作についてのレクチャー
15	講評、研究概要報告書の面接指導

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。					
授業概要					
対面授業 作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。					
受講上の注意					
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
和声学			10		
対位法			10		
管弦楽法			10		
楽曲研究			10		
作曲			60		
教科書情報					
教科書1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎		
教科書2	対位法				
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン		
教科書3	管弦楽法				
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭		

参考書情報			
参考書名1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。			
教員実務経験			
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。 1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。 2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。 1. グレゴリオ聖歌 2. モーツァルト 3. ベートーヴェン 4. シューベルト 5. ベルリオーズ		

	6. メンデルスゾーン
	7. ショパン
	8. シューマン
	9. リスト
	10. ワーグナー
	11. ヴェルディ
	12. フランク
	13. ブルックナー
	14. ブラームス
	15. ビゼー
	16. チャイコフスキー
	17. ドボルザーク
	18. フォーレ
	19. リムスキー・コルサコフ
	20. マーラー
	21. ドビュッシー
	22. ラフマニノフ
	23. ラヴェル
	24. シベリウス
	25. スクリャービン
	26. ストラヴィンスキー
	27. シェーンベルク
	28. ウェーベルン、ベルク
	29. バルトーク
	30. メシアン

科目名	作曲研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	桧垣 智也					
クラス名						
授業目的と到達目標						
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。						
授業概要						
対面授業 作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。						
受講上の注意						
・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
最終成果物				50		
授業に取り組む姿勢				50		
教科書情報						
教科書1	特になし(授業中に指示します)					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						

参考書名1	特になし(授業中に指示します)		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }			
特記事項			
教員実務経験			
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談 2. 制作、論文、発表の指導 3. 制作、論文、発表の指導 4. 制作、論文、発表の指導 5. 制作、論文、発表の指導 6. 制作、論文、発表の指導 7. 制作、論文、発表の指導 8. 制作、論文、発表の指導 9. 制作、論文、発表の指導 10. 制作、論文、発表の指導 11. 制作、論文、発表の指導		

	12. 制作、論文、発表の指導
	13. 制作、論文、発表の指導
	14. 制作、論文、発表の指導
	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標

和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。

授業概要

対面授業|作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。|

受講上の注意

和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
和声学	10
対位法	10
管弦楽法	10
楽曲研究	10
作曲	60

教科書情報

教科書1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎	
教科書2	対位法			
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン	
教科書3	管弦楽法			
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭	

参考書情報			
参考書名1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。			
教員実務経験			
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。 1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。 2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。 1. グレゴリオ聖歌 2. モーツァルト 3. ベートーヴェン 4. シューベルト 5. ベルリオーズ		

	6. メンデルスゾーン
	7. ショパン
	8. シューマン
	9. リスト
	10. ワーグナー
	11. ヴェルディ
	12. フランク
	13. ブルックナー
	14. ブラームス
	15. ビゼー
	16. チャイコフスキー
	17. ドボルザーク
	18. フォーレ
	19. リムスキー・コルサコフ
	20. マーラー
	21. ドビュッシー
	22. ラフマニノフ
	23. ラヴェル
	24. シベリウス
	25. スクリャービン
	26. ストラヴィンスキー
	27. シェーンベルク
	28. ウェーベルン、ベルク
	29. バルトーク
	30. メシアン

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	桧垣 智也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。					
授業概要					
対面授業 作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。					
受講上の注意					
・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
最終成果物			50		
授業に取り組む姿勢			50		
教科書情報					
教科書1	特になし(授業中に指示します)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	特になし(授業中に指示します)		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }			
特記事項			
教員実務経験			
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談 2. 制作、論文、発表の指導 3. 制作、論文、発表の指導 4. 制作、論文、発表の指導 5. 制作、論文、発表の指導 6. 制作、論文、発表の指導 7. 制作、論文、発表の指導 8. 制作、論文、発表の指導 9. 制作、論文、発表の指導 10. 制作、論文、発表の指導 11. 制作、論文、発表の指導		

	12. 制作、論文、発表の指導
	13. 制作、論文、発表の指導
	14. 制作、論文、発表の指導
	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標

和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。

授業概要

対面授業|作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。|

受講上の注意

和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
和声学	10
対位法	10
管弦楽法	10
楽曲研究	10
作曲	60

教科書情報

教科書1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎	
教科書2	対位法			
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン	
教科書3	管弦楽法			
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭	

参考書情報			
参考書名1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。			
教員実務経験			
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。 1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。 2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。 1. グレゴリオ聖歌 2. モーツァルト 3. ベートーヴェン 4. シューベルト 5. ベルリオーズ		

	6. メンデルスゾーン
	7. ショパン
	8. シューマン
	9. リスト
	10. ワーグナー
	11. ヴェルディ
	12. フランク
	13. ブルックナー
	14. ブラームス
	15. ビゼー
	16. チャイコフスキー
	17. ドボルザーク
	18. フォーレ
	19. リムスキー・コルサコフ
	20. マーラー
	21. ドビュッシー
	22. ラフマニノフ
	23. ラヴェル
	24. シベリウス
	25. スクリャービン
	26. ストラヴィンスキー
	27. シェーンベルク
	28. ウェーベルン、ベルク
	29. バルトーク
	30. メシアン

科目名	作曲研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	桧垣 智也					
クラス名						
授業目的と到達目標						
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。						
授業概要						
対面授業 作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。						
受講上の注意						
・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
最終成果物				50		
授業に取り組む姿勢				50		
教科書情報						
教科書1	特になし(授業中に指示します)					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						

参考書名1	特になし(授業中に指示します)		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }			
特記事項			
教員実務経験			
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談 2. 制作、論文、発表の指導 3. 制作、論文、発表の指導 4. 制作、論文、発表の指導 5. 制作、論文、発表の指導 6. 制作、論文、発表の指導 7. 制作、論文、発表の指導 8. 制作、論文、発表の指導 9. 制作、論文、発表の指導 10. 制作、論文、発表の指導 11. 制作、論文、発表の指導		

	12. 制作、論文、発表の指導
	13. 制作、論文、発表の指導
	14. 制作、論文、発表の指導
	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。					
授業概要					
対面授業 作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。					
受講上の注意					
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
和声学			10		
対位法			10		
管弦楽法			10		
楽曲研究			10		
作曲			60		
教科書情報					
教科書1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎		
教科書2	対位法				
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン		
教科書3	管弦楽法				
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭		

参考書情報			
参考書名1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。			
教員実務経験			
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。 1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。 2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。 1. グレゴリオ聖歌 2. モーツァルト 3. ベートーヴェン 4. シューベルト 5. ベルリオーズ		

	6. メンデルスゾーン
	7. ショパン
	8. シューマン
	9. リスト
	10. ワーグナー
	11. ヴェルディ
	12. フランク
	13. ブルックナー
	14. ブラームス
	15. ビゼー
	16. チャイコフスキー
	17. ドボルザーク
	18. フォーレ
	19. リムスキー・コルサコフ
	20. マーラー
	21. ドビュッシー
	22. ラフマニノフ
	23. ラヴェル
	24. シベリウス
	25. スクリャービン
	26. ストラヴィンスキー
	27. シェーンベルク
	28. ウェーベルン、ベルク
	29. バルトーク
	30. メシアン

科目名	作曲研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	桧垣 智也					
クラス名						
授業目的と到達目標						
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。						
授業概要						
対面授業 作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。						
受講上の注意						
・授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
最終成果物				50		
授業に取り組む姿勢				50		
教科書情報						
教科書1	特になし(授業中に指示します)					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						

参考書名1	特になし(授業中に指示します)		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{檜垣智也ホームページ, http://www.musicircus.net/ }			
特記事項			
教員実務経験			
電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談 2. 制作、論文、発表の指導 3. 制作、論文、発表の指導 4. 制作、論文、発表の指導 5. 制作、論文、発表の指導 6. 制作、論文、発表の指導 7. 制作、論文、発表の指導 8. 制作、論文、発表の指導 9. 制作、論文、発表の指導 10. 制作、論文、発表の指導 11. 制作、論文、発表の指導		

	12. 制作、論文、発表の指導
	13. 制作、論文、発表の指導
	14. 制作、論文、発表の指導
	15. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標

和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。

授業概要

対面授業|作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。|

受講上の注意

和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
和声学	10
対位法	10
管弦楽法	10
楽曲研究	10
作曲	60

教科書情報

教科書1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎	
教科書2	対位法			
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン	
教科書3	管弦楽法			
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭	

参考書情報			
参考書名1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。			
教員実務経験			
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。 1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。 2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。 1. グレゴリオ聖歌 2. モーツァルト 3. ベートーヴェン 4. シューベルト 5. ベルリオーズ		

	6. メンデルスゾーン
	7. ショパン
	8. シューマン
	9. リスト
	10. ワーグナー
	11. ヴェルディ
	12. フランク
	13. ブルックナー
	14. ブラームス
	15. ビゼー
	16. チャイコフスキー
	17. ドボルザーク
	18. フォーレ
	19. リムスキー・コルサコフ
	20. マーラー
	21. ドビュッシー
	22. ラフマニノフ
	23. ラヴェル
	24. シベリウス
	25. スクリャービン
	26. ストラヴィンスキー
	27. シェーンベルク
	28. ウェーベルン、ベルク
	29. バルトーク
	30. メシアン

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。					
授業概要					
対面授業 作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。					
受講上の注意					
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
和声学			10		
対位法			10		
管弦楽法			10		
楽曲研究			10		
作曲			60		
教科書情報					
教科書1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎		
教科書2	対位法				
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン		
教科書3	管弦楽法				
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭		

参考書情報			
参考書名1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。			
教員実務経験			
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。 1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。 2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。 楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。 1. グレゴリオ聖歌 2. モーツァルト 3. ベートーヴェン 4. シューベルト 5. ベルリオーズ		

	6. メンデルスゾーン
	7. ショパン
	8. シューマン
	9. リスト
	10. ワーグナー
	11. ヴェルディ
	12. フランク
	13. ブルックナー
	14. ブラームス
	15. ビゼー
	16. チャイコフスキー
	17. ドボルザーク
	18. フォーレ
	19. リムスキー・コルサコフ
	20. マーラー
	21. ドビュッシー
	22. ラフマニノフ
	23. ラヴェル
	24. シベリウス
	25. スクリャービン
	26. ストラヴィンスキー
	27. シェーンベルク
	28. ウェーベルン、ベルク
	29. バルトーク
	30. メシアン

科目名	作曲特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標

古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、|電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における|多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。|また、音響・映像機器、新世代楽器、IT との関わりについても考察する。|洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器（道具）との関わりを|実践的に追究するアプローチの方法を学ぶ。|また「美術と音楽」「建築と音楽」「映像と音楽」「文学と音楽」など、|音楽以外の領域の履修者の専門領域との関わりについて考察する。|他領域からの音楽文化への眼差しを重視し、あるいは、諸領域への|音楽学の応用方法を検討するためのディスカッションの機会を設定する。|

授業概要

前半は日本音楽における歴史的 작품을テーマに、記譜法、楽器と奏法、|演奏の場（社会）等の諸側面から特徴を考察する。次に日本の音楽界の現状を扱い、|作曲家、演奏家、聴衆等について多角的に検討する。その後、受講生各自の研究課題に関わり、|現代の日本音楽、国際的に様々な音楽種目に用いられる日本楽器の様相、|メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げる。|音楽領域に留まるのではなく、他領域の受講生の参加を強く求め、芸術・文化・社会について|多角的に議論したい。|

受講上の注意

文化的な側面において急速に国際化の進む時代であるからこそ、日本音楽|に関して、歴史と音楽の種類、文化的、地域的背景の理解に努めるとともに|に、日常的に好奇心を高めること。|

成績評価方法・基準

種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書情報

教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	CD コレクションシリーズ 39「地無し尺八の可能性」解説書		
出版社名	浜松：浜松市楽器博物館	著者名	志村哲
参考書名2	『事典 世界音楽の本』		
出版社名	東京：岩波書店	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名3	『古管尺八の楽器学』		
出版社名	東京：出版芸術社	著者名	志村哲
参考書名4	『コンピュータと音楽の世界』		
出版社名	東京：共立出版	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士（学術）の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。			
授業計画（各回予定）			
授業回	授業内容		
1	はじめに：日本の音楽研究における歴史的視点と科学的アプローチの諸領域について		
2	楽器の種類と音楽1：日本の古代、中世の音楽と歴史的尺八（雅楽尺八、一節切、天吹）		
3	楽器の種類と音楽2：作曲者のない 150 曲の虚無僧尺八（古典本曲）		
4	楽器の種類と音楽3：演奏できなければ作れない三曲合奏		

5	楽器の種類と音楽4: 箏における楽器の歴史と記譜法、演奏技法
6	楽器の種類と音楽5: 箏における楽器の改造と現代的展開 ～ 宮城道雄の発想 ～
7	楽器の種類と音楽6: 三味線音楽のひろがり ～ 三味線はひとつではなく、非常にたくさんの種類がある ～
8	楽器の種類と音楽7: 日本楽器における種々の分類法
9	楽器の種類と音楽8: 近代における日本楽器改造の思想と音楽 ～ オークラウロの諸問題 ～
10	楽器の種類と音楽9: 現代邦楽ブームとは何だったのか？
11	日本楽器の国際化の諸相
12	コンピュータ科学やテクノロジーを応用した日本音楽の追究 ～ Cyber 尺八: 人間とコンピュータとの協調あるいは、対峙 ～
13	西洋的電子楽器と日本的電子楽器についての考察 ～ 電子邦楽器開発の歴史と今後の可能性 ～
14	音楽作品上演における VR(ヴァーチャル・リアリティ)と真実との関係あるいは、現実的な作品の位置づけについて ～ 演奏家はこれからも必要？ ～
15	前期の総括とディスカッション
16	後期のはじめに: 日本社会における音楽・音楽家と、日本の楽器の現状について
17	今日の日本音楽の特徴1: 日本楽器製作者とそれを支える社会
18	今日の日本音楽の特徴2: 日本伝統音楽の伝承・教育・継承者について
19	日本音楽のための DTM(デスクトップ・ミュージック)システム
20	音楽資料の歴史的保存のための情報収集・分析と発信 ～ IT 社会のための情報音楽 Web 博物館の未来 ～
21	受講生各自の研究テーマに則った課題設定1
22	受講生各自の研究テーマに則った課題設定2
23	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
24	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
25	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
26	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
27	プレゼンテーションと講評
28	プレゼンテーションと講評
29	未来の予測、あるいは期待(レクチャーとディスカッション)

30	課題の完成、提出と総評
----	-------------

科目名	作曲特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標

注:本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、| 同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。||古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、|電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における|多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。|また、音響・映像機器、新世代楽器、IT との関わりについても考察する。|洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器 (道具)との関わりを|実践的に追究するアプローチの方法を学ぶ。|また「美術と音楽」「建築と音楽」「映像と音楽」「文学と音楽」など、|音楽以外の領域の履修者の専門領域との関わりについて考察する。|他領域からの音楽文化への眼差しを重視し、あるいは、諸領域への|音楽学の応用方法を検討するためのディスカッションの機会を設定する。 |

授業概要

注:本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、| 同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。||前半は日本音楽における歴史的 작품을テーマに、記譜法、楽器と奏法、|演奏の場(社会)等の諸側面から特徴を考察する。次に日本の音楽界の現状を扱い、|作曲家、演奏家、聴衆等について多角的に検討する。その後、受講生各自の研究課題に関わり、|現代の日本音楽、国際的に様々な音楽種目に用いられる日本楽器の様相、|メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げる。|音楽領域に留まるのではなく、他領域の受講生の参加を強く求め、芸術・文化・社会について|多角的に議論したい。 |

受講上の注意

文化的な側面において急速に国際化の進む時代であるからこそ、日本音楽||に関して、歴史と音楽の種類、文化的、地域的背景の理解に努めるととも||に、日常的に好奇心を高めること。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書情報			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士(学術)の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		

1	本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、授業内容は「2020年度 前期」の16～30に、「2020年度 後期」分が連なって記載されています。そこで「2020年度 前期」の内容を参照してください。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	同上
14	同上
15	同上

科目名	作曲特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標

注:本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、| 同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。||古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、|電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における|多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。|また、音響・映像機器、新世代楽器、IT との関わりについても考察する。|洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器 (道具)との関わりを|実践的に追究するアプローチの方法を学ぶ。|また「美術と音楽」「建築と音楽」「映像と音楽」「文学と音楽」など、|音楽以外の領域の履修者の専門領域との関わりについて考察する。|他領域からの音楽文化への眼差しを重視し、あるいは、諸領域への|音楽学の応用方法を検討するためのディスカッションの機会を設定する。 |

授業概要

注:本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、| 同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。||前半は日本音楽における歴史的 작품을テーマに、記譜法、楽器と奏法、|演奏の場(社会)等の諸側面から特徴を考察する。次に日本の音楽界の現状を扱い、|作曲家、演奏家、聴衆等について多角的に検討する。その後、受講生各自の研究課題に関わり、|現代の日本音楽、国際的に様々な音楽種目に用いられる日本楽器の様相、|メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げる。|音楽領域に留まるのではなく、他領域の受講生の参加を強く求め、芸術・文化・社会について|多角的に議論したい。 |

受講上の注意

文化的な側面において急速に国際化の進む時代であるからこそ、日本音楽||に関して、歴史と音楽の種類、文化的、地域的背景の理解に努めるととも||に、日常的に好奇心を高めること。 |

成績評価方法・基準

種別	割合 (%)
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書情報			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士(学術)の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		

1	本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、授業内容は「2020年度 前期」の16～30に、「2020年度 後期」分が連なって記載されています。そこで「2020年度 前期」の内容を参照してください。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	同上
14	同上
15	同上

科目名	作曲特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。

受講上の注意

色々な形態の音楽作品に常に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
作品評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	管弦楽作品の鑑賞と分析 1		
2	管弦楽作品の鑑賞と分析 2		
3	管弦楽作品の鑑賞と分析 3		
4	管弦楽作品の鑑賞と分析 4		
5	管弦楽作品の鑑賞と分析 5		
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析 1		
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析 2		
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析 3		
9	オペラの物語と音楽について		
10	オペラの鑑賞と分析 1		
11	オペラの鑑賞と分析 2		
12	オペラの鑑賞と分析 3		
13	オペラの鑑賞と分析 4		

14	オペラの鑑賞と分析 5
15	オペラの鑑賞と分析 6
16	後期自由作曲について
17	作品制作、演習と添削
18	作品制作、演習と添削
19	作品制作、演習と添削
20	作品制作、演習と添削
21	作品制作、演習と添削
22	作品制作、演習と添削
23	作品制作、演習と添削
24	作品制作、演習と添削
25	作品制作、演習と添削
26	作品のプレゼンテーション
27	作品のプレゼンテーション
28	作品のプレゼンテーション
29	作品のプレゼンテーション
30	1年のまとめ

科目名	作曲特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。

受講上の注意

色々な形態の音楽作品に常に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
作品評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	管弦楽作品の鑑賞と分析 1		
2	管弦楽作品の鑑賞と分析 2		
3	管弦楽作品の鑑賞と分析 3		
4	管弦楽作品の鑑賞と分析 4		
5	管弦楽作品の鑑賞と分析 5		
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析 1		
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析 2		
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析 3		
9	オペラの物語と音楽について		
10	オペラの鑑賞と分析 1		
11	オペラの鑑賞と分析 2		
12	オペラの鑑賞と分析 3		
13	オペラの鑑賞と分析 4		

14	オペラの鑑賞と分析 5
15	オペラの鑑賞と分析 6
16	後期自由作曲について
17	作品制作、演習と添削
18	作品制作、演習と添削
19	作品制作、演習と添削
20	作品制作、演習と添削
21	作品制作、演習と添削
22	作品制作、演習と添削
23	作品制作、演習と添削
24	作品制作、演習と添削
25	作品制作、演習と添削
26	作品のプレゼンテーション
27	作品のプレゼンテーション
28	作品のプレゼンテーション
29	作品のプレゼンテーション
30	1年のまとめ

科目名	彫刻研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	竹屋 修					
クラス名						
授業目的と到達目標						
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。						
授業概要						
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその 追求を図るが、技法(手法)としては、モデリングをその主体とする。素 材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチー フを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは 無く、モチーフと各自(制作者)が対峙し、そこから生まれ出る感性の発 露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼と する。						
受講上の注意						
目的意識を持った受講態度を望む。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
提出作品の評価				70		
授業に取り組む姿勢				30		
教科書情報						
教科書1	なし。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。			
教員実務経験			
愛知県立芸術大学・名古屋芸術大学・広島市立大学・彫刻家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面 1. 1年目・[前期]制作点数(制作途中も含む)を少なくとも2 ～ 4 点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ(主題)に於ける各自の有り方を模 索し、各自の制作の指針と成る様努める。 当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。 その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。 1年目・[後期] 前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1 ～ 2 点とする。 2. 2年目・[前期] ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。 2年目・[後期] 一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。		

科目名	彫刻研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	竹屋 修					
クラス名						
授業目的と到達目標						
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。						
授業概要						
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその 追求を図るが、技法(手法)としては、モデリングをその主体とする。素 材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチー フを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは 無く、モチーフと各自(制作者)が対峙し、そこから生まれ出る感性の発 露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼と する。						
受講上の注意						
目的意識を持った受講態度を望む。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
提出作品の評価				70		
授業に取り組む姿勢				30		
教科書情報						
教科書1	なし。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面 1. 1年目・[前期]制作点数(制作途中も含む)を少なくとも2 ～ 4 点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ(主題)に於ける各自の有り方を模 索し、各自の制作の指針と成る様努める。 当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。 その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。 1年目・[後期] 前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1 ～ 2 点とする。 2. 2年目・[前期] ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。 2年目・[後期] 一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。		

科目名	彫刻研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎造形要素の制作研究の充実と、さらに一歩進んで広い視野にたった彫刻研究を進める。その具体的手法をそれぞれが研究を進める過程に於いて模索し、確立することを目的とする。|モデリングとカービングの両方を表現方法としながら素材とフォルムの関係性を追求して、より完成度のたかい彫刻作品をめざす。||

授業概要

対面授業|造形に於いて具象または抽象的表現の可能性をテーマとして制作を進めることになるが、素材を自ら選択しながらモデリング、カービング、さらに集合的表現により複数個の作品を完成する。|モチーフをただ観察し写し取る行為が中心をなすのではなく、モチーフと作者が対峙しそこから生まれるイメージに起点を置きながら、形態の具現化するために制作を進めてゆく。|

受講上の注意

目的意識を持った意欲的な制作態度を強く求める。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の評価	70
制作に取り組む姿勢	30

教科書情報

教科書1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
彫刻家、愛知県立芸術大学、広島市立大学、名古屋芸術大学、高等学校美術			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面授業 第1週から15週はコンセプトの明確化と、具体的表現の在り方を素材の研究と合い混ぜながらの制作研究。 第16週から30週の学年末にかけては前期の研究を踏まえ、さらに目的意識を持った制作に基づいて、創ることの意義及び彫刻作品の考察を深めてゆく。 提出作品点数は少なくとも2～4点とする。		

科目名	彫刻研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。

授業概要

対面授業|造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその|追求を図るが、技法(手法)としては、モデリングをその主体とする。素|材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチー|フを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは|無く、モチーフと各自(制作者)が対峙し、そこから生まれ出る感性の発|露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。

受講上の注意

目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報

教科書1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面 1. 1年目・[前期]制作点数(制作途中も含む)を少なくとも2 ～ 4 点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ(主題)に於ける各自の有り方を模 索し、各自の制作の指針と成る様努める。 当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。 その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。 1年目・[後期] 前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1 ～ 2 点とする。 2. 2年目・[前期] ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。 2年目・[後期] 一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。		

科目名	彫刻研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	竹屋 修					
クラス名						
授業目的と到達目標						
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。						
授業概要						
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその 追求を図るが、技法(手法)としては、モデリングをその主体とする。素 材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチー フを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは 無く、モチーフと各自(制作者)が対峙し、そこから生まれ出る感性の発 露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼と する。						
受講上の注意						
目的意識を持った受講態度を望む。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
提出作品の評価				70		
授業に取り組む姿勢				30		
教科書情報						
教科書1	なし。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面 1. 1年目・[前期]制作点数(制作途中も含む)を少なくとも2 ～ 4 点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ(主題)に於ける各自の有り方を模 索し、各自の制作の指針と成る様努める。 当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。 その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。 1年目・[後期] 前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1 ～ 2 点とする。 2. 2年目・[前期] ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。 2年目・[後期] 一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。		

科目名	彫刻研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	竹屋 修					
クラス名						
授業目的と到達目標						
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。						
授業概要						
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその 追求を図るが、技法(手法)としては、モデリングをその主体とする。素 材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチー フを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは 無く、モチーフと各自(制作者)が対峙し、そこから生まれ出る感性の発 露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼と する。						
受講上の注意						
目的意識を持った受講態度を望む。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
提出作品の評価				70		
授業に取り組む姿勢				30		
教科書情報						
教科書1	なし。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面 1. 1年目・[前期]制作点数(制作途中も含む)を少なくとも2 ～ 4 点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ(主題)に於ける各自の有り方を模 索し、各自の制作の指針と成る様努める。 当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。 その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。 1年目・[後期] 前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1 ～ 2 点とする。 2. 2年目・[前期] ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。 2年目・[後期] 一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表を社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作についてそのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトへなど社会参加も積極的にすすめる。					
受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復習:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	授業でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	授業でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	21 世紀の写真表現は多岐多様にわたり、その輪郭を捕まえることは容易ではない。そのために、授業のなかでは、研究領域や自らの研究テーマの枠にとらわれない思考を深めるために、様々な教材を提示することを基本として、以下を授業で展開する。 1) 知識を増やすように指導。 2) 成果物としての作品や小論文などについてディスカッションを深める。 3) 作品を社会へ発表するための準備を指導。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標

グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に|対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちら|も不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以|上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これ|ら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していく|という意識を持ってもらいたい。

授業概要

対面授業|ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結|果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が|必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーション|して表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究|という名に相応しくなる。|客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互|交換の中で醸成されていくべきである。

受講上の注意

研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。|一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	こちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名2	こちいい本		
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし 包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画 して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。) 後期、研究テーマの論理的確立をし、シミュレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。) 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推 進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的な テーマにもとづいたコラボレーションを おこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携に よる新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発 表・展開する為の考察を行う。					
授業概要					
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域での ART について研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とす るが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。					
受講上の注意					
過去に追求してきたテーマを、今後の作品制作の展開への参考資料となるよう常にポートフォリオの形でまとめ 上げておくこと。 欠席の時は必ず報告をすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	これまでの研究テーマを再考し、修士課程 2 年間の中で、どのような研究が成果をもたらすのかを考えながら、研鑽努力をする。 そして、その為に必要な資料や参考文献を得る為に、学内外の図書館利用を活発に行う。 写真、映像、ミクストメディア等、写真表現の広域性に注目し、スケール感のある作品制作に挑戦する。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。					
授業概要					
[対面 502 教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。					
受講上の注意					
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業では、研究テーマに対する調査からスタートします。多くの先行研究や書籍を確認し、研究テーマにまつわる関連事項を広く明らかにしていきます。 一定量の調査分析ができた段階で、仮説を立て、1次デザインを試作します。そのアウトプットに対して、客観的検証を複数のフィルターにかけて行い精度を高めていきます。検証結果が芳しくない場合は、研究テーマの方向性を大きく変えます。学生自身のしたい事と、研究として最適なテーマは異なる事が多く、これに学生自ら気付かせる授業内容としていきます。 年間を通して3回から4回程度、学生自ら立てたテーマでデザインによるアウトプットをさせることで、年度終了時には精度の高い研究テーマと制作物が明らかになってきます。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復讐:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要と研究テーマの確認		
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。		
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る		
4	制作計画、研究計画の発表		
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る		
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る		
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ		
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。		
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案		
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正		
11	作品制作と研究テーマの経過報告		
12	ライフライン(振り返り)		

13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標

グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に|対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちら|も不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以|上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これ|ら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していく|という意識を持ってもらいたい。

授業概要

対面授業。|ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結|果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が|必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーション|して表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究|という名に相応しくなる。|客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互|交換の中で醸成されていくべきである。

受講上の注意

研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。|一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	こちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名2	こちいい本		
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし 包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画 して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。) 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。) 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推 進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションを おこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携に よる新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。					
授業概要					
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な 喜びや感動をコアに、広域での ART について研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。					
受講上の注意					
今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。 欠席の時は必ず報告をすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	夏休み中に制作した作品の講評		
2	作品のプリント制作		
3	作品の book 制作とインデザイン		
4	book 制作とインデザイン		
5	プリント制作とポートフォリオ制作		
6	ギャラリークルージング		
7	ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作		
8	展覧会に向けての構想		
9	展覧会場の視察		
10	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作		

11	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
12	展示会場設営
13	二年次に向けての制作準備
14	二年次に向けての制作準備
15	二年次に向けての制作準備

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。					
授業概要					
[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。					
受講上の注意					
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	デザイン研究		
3	デザイン研究		
4	デザイン研究		
5	デザイン研究		
6	デザイン研究		
7	デザイン研究		

8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復讐:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要と研究テーマの確認		
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。		
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る		
4	制作計画、研究計画の発表		
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る		
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る		
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ		
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。		
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案		
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正		
11	作品制作と研究テーマの経過報告		
12	ライフライン(振り返り)		

13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標

グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に|対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちら|も不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以|上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これ|ら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していく|という意識を持ってもらいたい。

授業概要

対面授業。|ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結|果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が|必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーション|して表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究|という名に相応しくなる。|客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互|交換の中で醸成されていくべきである。

受講上の注意

研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。|一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	こちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名2	こちいい本		
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし 包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画 して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。) 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。) 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。		

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標

常にアンテナを張り、展覧会やブック制作等、積極的に行動をすること。修士課程終了制作に向けて個性が表出した作品を目指し、コンペティションへの挑戦も視野に入れながら研究をする。

授業概要

一年次での研究成果を踏まえ、更に構築を重ねること。|日々の撮影は勿論の事、様々な写真展示や美術館鑑賞からアイデアを学び、自身の制作のヒントにする。|授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。

受講上の注意

欠席の際は必ず報告すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	今後の研究テーマに関する相談		
2	作品制作に関する資料収集		
3	作品制作		
4	作品制作		
5	ギャラリークルージング		
6	作品制作(主にプリントワーク)		
7	作品制作(プリントワークと book 製作)		
8	写真におけるミクストメディアの研究 1		
9	写真におけるミクストメディアの研究 2		
10	ミクストメディア作品制作		
11	ミクストメディア作品の制作仕上げ		
12	外出撮影と展覧会視察		
13	作品制作		

14	作品制作
15	作品制作

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。					
授業概要					
[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。					
受講上の注意					
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	デザイン研究		
3	デザイン研究		
4	デザイン研究		
5	デザイン研究		
6	デザイン研究		
7	デザイン研究		

8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。					
授業概要					
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。					
受講上の注意					
予習:表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復讐:文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品制作			60		
研究姿勢			40		
教科書情報					
教科書1	授業内でその都度紹介する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要と研究テーマの確認		
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。		
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る		
4	制作計画、研究計画の発表		
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る		
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る		
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ		
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。		
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案		
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正		
11	作品制作と研究テーマの経過報告		
12	ライフライン(振り返り)		

13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標

グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に|対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちら|も不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以|上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これ|ら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していく|という意識を持ってもらいたい。

授業概要

対面授業。|ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結|果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が|必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーション|して表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究|という名に相応しくなる。|客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互|交換の中で醸成されていくべきである。

受講上の注意

研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。|一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	こちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名2	こちいい文字		
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし 包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画 して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。) 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。) 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。		

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推 進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的な テーマにもとづいたコラボレーションを おこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携に よる新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発 表・展開する為の考察を行う。					
授業概要					
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な 喜びや感動をコアに、広域での ART について研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とす るが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。					
受講上の注意					
今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。 欠席の時は必ず報告 をすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	夏休み中に制作した作品の講評		
2	作品のプリント制作		
3	作品の book 制作とインデザイン		
4	book 制作とインデザイン		
5	プリント制作とポートフォリオ制作		
6	ギャラリークルージング		
7	ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作		
8	展覧会に向けての構想		
9	展覧会場の視察		
10	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作		

11	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
12	展示会場設営
13	修士課程終了作品制作に向けての準備
14	修士課程終了作品制作に向けての準備
15	修士課程終了作品制作に向けての準備

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。					
授業概要					
[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。					
受講上の注意					
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	デザイン研究		
3	デザイン研究		
4	デザイン研究		
5	デザイン研究		
6	デザイン研究		
7	デザイン研究		

8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標

グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に|対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちら|も不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以|上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これ|ら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していく|という意識を持ってもらいたい。

授業概要

対面授業|ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結|果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が|必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーション|して表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究|という名に相応しくなる。|客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互|交換の中で醸成されていくべきである。

受講上の注意

研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。|一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	こちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名2	こちいい本		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画 して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。) 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。) 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。					
授業概要					
[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。					
受講上の注意					
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業では、研究テーマに対する調査からスタートします。多くの先行研究や書籍を確認し、研究テーマにまつわる関連事項を広く明らかにしていきます。 一定量の調査分析ができた段階で、仮説を立て、1次デザインを試作します。そのアウトプットに対して、客観的検証を複数のフィルターにかけて行い精度を高めていきます。検証結果が芳しくない場合は、研究テーマの方向性を大きく変えます。学生自身のしたい事と、研究として最適なテーマは異なる事が多く、これに学生自ら気付かせる授業内容としていきます。 年間を通して3回から4回程度、学生自ら立てたテーマでデザインによるアウトプットをさせることで、年度終了時には精度の高い研究テーマと制作物が明らかになってきます。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標

グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に|対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちら|も不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以|上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これ|ら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していく|という意識を持ってもらいたい。

授業概要

対面授業|ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結|果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が|必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーション|して表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究|という名に相応しくなる。|客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互|交換の中で醸成されていくべきである。

受講上の注意

研究の成就是、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。|一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	こちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名2	こちいい本		
出版社名	パイ インターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
実務経験:グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。			
教員実務経験			
kokokumaru.com			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 (グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画 して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。) 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 (自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。) 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IOT サービス、シェアリング、ロボティクス、AI デザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的な UX デザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。					
授業概要					
[対面授業] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。					
受講上の注意					
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業では、研究テーマに対する調査からスタートします。多くの先行研究や書籍を確認し、研究テーマにまつわる関連事項を広く明らかにしていきます。 一定量の調査分析ができた段階で、仮説を立て、1次デザインを試作します。そのアウトプットに対して、客観的検証を複数のフィルターにかけて行い精度を高めていきます。検証結果が芳しくない場合は、研究テーマの方向性を大きく変えます。学生自身のしたい事と、研究として最適なテーマは異なる事が多く、これに学生自ら気付かせる授業内容としていきます。 年間を通して3回から4回程度、学生自ら立てたテーマでデザインによるアウトプットをさせることで、年度終了時には精度の高い研究テーマと制作物が明らかになってきます。		

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標

1.社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。2.他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。3.これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。

授業概要

クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域での ART について研究する。個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。

受講上の注意

今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。欠席の時は必ず報告をすること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.夏休み中に制作した作品の講評 2.作品のプリント制作 3.作品の book 制作とインデザイン 4.作品の book 制作とインデザイン 5.プリント制作とポートフォリオ制作 6.ギャラリークルージング 7.ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作 8.展覧会に向けての構想 9.展覧会場の視察 10.展覧会作品の制作とポートフォリオの制作 11.展覧会作品の制作とポートフォリオの制作 12.展示会場設営 13.二年次に向けての制作準備		

	14.二年次に向けての制作準備
	15.二年次に向けて

科目名	文学創作研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	有吉 玉青					
クラス名	文学創作研究演習					
授業目的と到達目標						
よりよい修士作品を仕上げることを目的、また目標とします。						
授業概要						
対面授業 書きたいものをどんどん書いてきてください。それと並行して、1年目は文章のトレーニングを行います。いろいろなジャンルのものを書いてみましょう。それはまた、自分の書きたいものや書き方を見直すきっかけにもなるかもしれません。可能であれば取材をして書くということも考えています。文章の基礎体力をつけ、2年目、修士作品を仕上げていきます。						
受講上の注意						
授業日は変更が出る場合があります。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点(受講姿勢、課題に対する取り組み方)				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各回、書いてきたものについて話し合いながら、どうすれば自分の伝えたいことが読む人により伝わるかを考えていきます。私自身も、自分の伝えたいことを人に伝えようと試行錯誤をしています。一緒に作品を作り上げていきましょう。		

科目名	文学創作研究演習		年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	有吉 玉青					
クラス名						
授業目的と到達目標						
59346 文学創作研究演習に同じ						
授業概要						
59346 文学創作研究演習に同じ						
受講上の注意						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			
参考書名2						
出版社名			著者名			

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	59346 文学創作研究演習に同じ		

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
59346 文学創作研究演習に同じ					
授業概要					
59346 文学創作研究演習に同じ					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	59346 文学創作研究演習に同じ		

科目名	文学創作研究演習		年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	有吉 玉青					
クラス名						
授業目的と到達目標						
59346 文学創作研究演習に同じ						
授業概要						
59346 文学創作研究演習に同じ						
受講上の注意						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			
参考書名2						
出版社名			著者名			

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	59346 文学創作研究演習に同じ		

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
59346 文学創作研究演習に同じ					
授業概要					
59346 文学創作研究演習に同じ					
受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	59346 文学創作研究演習に同じ		